

1月24日(水) 濱智子副会長が東磐井郡藤沢町で子育てについて、保育園の保護者や老人クラブの方々を対象に講演をしました。内容の要旨を紹介します。

健やかな子どもを育てるために～その1～

「子どもは、ひとり一人みな異なる個性を持っている。他の子どもと比べるのではなく、我が子の事実即して、教えなければならぬことは教え、そして諭し、叱るときは本気で叱り、どんな小さなことも見逃さず、子どもの良さを認め励ますことが大切である。」と言われていますが、このことは言葉では理解できても、実際には親として悩みそして迷いながら子育てをしているのではないのでしょうか。

そこで、健やかな子どもを育てるために親としてどうあればよいか、みなさんと共に考えてみたいと思います。

Ⅰ 幼児期の子どもへの接し方

1.《0～1歳》密着の時代 『しっかり抱いてあげる』

親がそばにいて、肌で接してあげることで適度な刺激を与えること
人間として成長していくための土台は母と子の強い絆によりつくられる。
親や家族以外の第三者が子どもを育てることは好ましくない。
人間として基本的特徴が発達する時期である。

2.《1～3歳》しつけの時代 『下におろしてあげる』

人間形成の基盤(性格・知能)ができる時期である。
(親子関係をくずすと後まで影響をあたえる。)
母は子どもにとって、慈愛に満ちた母港である。
2歳「なあに…」 3歳「なぜ、どうして…」
感動を親子で、家族で、共有しあうことが大切である。
第一反抗期・・・親をてこずらせる時期
母親との関わりの中で自我が芽生える。
聞き上手は、子どもを話し上手にする。

3.《3～6歳》親離れの時期 『交わることで訓練する』

交わりの広がり、手順を踏んで家族の協力で徐々に広げていく時期である。
家族での仕事を分担して、家族の一員として認められる喜びを与える。
金銭に対する考え方を養う。(お小遣いなど)
公衆道徳を教え、行動させる。

《今回は「家族のきずなと子育ての環境づくり」の予定です。》

ハローネットコーナー

新しいコーナーができました。ここでは、楽しくちょっとためになるホームページを紹介します。

今回はお母さんたちが作っている子育てホームページです

Satake s Home

http://www2.justnet.ne.jp/~n_s.s/



新聞づくりQ&A

新聞づくりQ&A



Q : P T A 広報をつくる上で、まずその特性を知っておきたいのですが？
(北上市 P T A 広報委員)

A : P T A 広報は、各学校の P T A 活動を支援促進する役割を担うものですが、もちろんそれぞれの地域・学校の特色にあったものであるという事が言えると思います。
ここでは、一般的な広報づくりの特性を加味した目的について表にしてみましたので参考にしてください。

広報(新聞)づくりの目的は、要約すると	(参考) P T A その特徴
みんなの生活を高め、明るく楽しい をつくる の動きを正しい方向に向ける.....高める や学校の出来事を知らせ望ましい人間関係をつくる や学校の生活、活動を記録する.....書き残す (には、例えば学校・P T A ・子供・地域など、自分たちの広報のめざすものに合った言葉を当てはめて考えてみましょう。)	活動性 指導性 報道性 記録性 ・学校への協力団体 ・家庭教育の振興 ・成人教育の充実 ・社会活動への一歩 ・生涯学習への糸口 ・子を持つ親の通過集団



編集後記

21世紀に入り、「ぴぴっと」も少しずつ活動の幅を広げていこうと動き出したところです。多くの人に役立つ「ぴぴっと」を目指しています。ご意見・ご感想をぜひお寄せください。

住所：〒024-0012

北上市常盤台1-14-12

TEL・Fax：0197-64-0758

E-mail：agi@titan.ocn.ne.jp

しんぶんまめちしき

その3

< 日刊紙の誕生 2 >

明治5年は、「政治革命」と言われている年ですが、社会的に見ると「コミュニケーション革命」と言う見方も成り立ちます。それは、全国郵便制度の完成、新橋・横浜間の鉄道の開通、有力新聞の輩出があったという点からも言えると思います。

明治5年の日刊紙の発刊の状況

- 2月 「日新真事誌」 (8年12月廃刊)
- 「東京日日新聞」 (東京最初の日刊紙で現在の毎日新聞の祖)
- 6月 「郵便報知新聞」 (郵便制度の活用を図るために発行明治27年「報知新聞」と改題)
- 7月 「峡中新聞」 (甲府で発刊され現在の「山梨日日新聞」の祖)

(太陽コレクション かから版新聞より)